

11月21日（木）

## ろう教育部門8 手話について（2）

### 「手話が子供達に伝わらないときは」

手話を学習する聴者にとって、第一言語は音声日本語、手話は第二言語です。その一方、手話で常にやりとりしている子供達にとっては、第一言語は手話です。

手話は、聴者が常に使っている音声日本語と同じように、生きた言語です。そのため、単語を並べただけでは相手に伝わらないことがあります。今回はいくつかコツを紹介します。

第一に、前置きと確認を入れることです。

例えば、

- ① 「これから大切なことを言います」
- ② （表情を入れて要点を最初に伝える）
- ③ 「私の言っていることは分かりましたか？」

こうすると、何も言わずに突然伝えるよりも、内容が相手に伝わるはずですよ。

第二に、NMMを意識することです。

NMMは「non-manual markers」の略です。日本語で「非手指標識」と言い、手以外の動き（口型、眉・まぶた・視線・あごの動き、頭や上体の動きなど）に、日本手話の文法的役割を持たせることをいいます。

例えば、

- ① 眉（上げ・寄せ）
- ② 目（見開き・細め・視線）
- ③ あご（動き）
- ④ 口（口型）
- ⑤ 頬（ふくらみ・すぼめ）
- ⑥ 舌（舌だし・動き）
- ⑦ 頭（うなずき・動き）
- ⑧ 肩（広げ・すぼめ・動き）

これらを意識することで、伝わりやすくなります。